

タイトル…フアニーたい焼きトム👉ほ
うれん草の白和え

登場人物…

トム (30代前半、男)・『たい焼き
トム』の店主。エンタメ精神旺盛な
アメリカ人。ユニークなたい焼きを
作るのが趣味。

魚住 (20代前半、女)・『たい焼き
トム』のバイト店員。真面目で心配
性だが、たい焼き愛からトムをサポ
ートする。

常連客たち・個性豊かな客たちが
『たい焼きトム』に集う。

新規客たち・初めて訪れる客たち
が奇妙なたい焼きに困惑。

第一幕… たい焼きトムの新商品発表！

シーン1: たい焼きトムの店内

(店内には陽気なBGMが流れ、カウンタ―ではトムがエプロン姿でテンション高く何かをこねている)

トム…(興奮気味)「レディース&ジェントルメン！ついに、待ちに待った新商品が登場だ！」

魚住…(警戒しながら)「また変なもの作っただんですか？」

トム…(胸を張って)「変なものじゃない！これは…ヘルシー&ジャパニーズ&サプライズなたい焼きさ！」

魚住…(ため息)「その組み合わせが一番危険なんですよ…で、何を入れたんですか？」

（トムが得意げにたい焼きを掲げる。中身は緑色のペーストが詰まったたい焼き）

トム…「名付けて！『ほうれん草の白和えたい焼き』！！！」

（沈黙が流れる。カウンターにいた常連客たちがざわめく）

常連客…「え…ほうれん草？白和え？」

常連客…「たい焼きって…普通甘いもんじゃ…」

魚住…「これはまた…売れるんですかね…？」

トム…「どうして売れないと思うんだ？ヘルシーで、クリーミーで、しかもジャパニーズトラディショナルフード！」

魚住…「たい焼きに求められてるのはそこじゃない気がしますけど…」

(トムはまったく気にせず、ドヤ顔で焼き上げる)

第二幕…味見タイムと試行錯誤

シーン②…魚住の試食

(カウンターで、魚住が恐る恐るたい焼きを手に取る)

魚住…「…見た目は普通のたい焼きなんですけど…」

トム…「さあ、勇気を持って食べるんだ、魚住！」

(魚住が一口かじる。沈黙。もぐもぐと咀嚼しながら、表情が曇る)

魚住…「…これは…：…なんというか…：…すごく…：…ヘルシーですね…：…」

トム…「イエス！ヘルシー！」

魚住…「たい焼きとしてどうなんです
か…」

(常連客たちも興味津々で試食する)

常連客1…「あれ？意外と…悪くない？」

常連客2…「うーん…甘いのか、しょっぱ
いのか…どっちつかずな感じが…？」

トム…「ファニーだからOK！」

魚住…「その理論、もう通用しないです
よ…」

(しかし、トムは意に介さず、看板メニ
ューにすることを決定)

第三幕…お客さんの飯テロ！

シーン④…たい焼きを食べる客たち

(店内はすでに大混雑。様々な客たちがテーブルで『ほうれん草の白和えたい焼き』を手にしている)

常連客「：お、おい：なんだこのたい焼き：？」

(恐る恐るたい焼きを割ると、中からはとろりとした白和えが溢れ出る。その瞬間、店内に神々しい光が差し込む演出)

常連客「：これは：！？ 甘いのか！？ しょっぱいのか！？」

(客たちが一斉にかじる。その瞬間、世界がスローモーションになる！)

(カットイン…口の中で広がる味のイメージ。ほうれん草のほろ苦さ、胡麻の香ばしさ、絶妙な甘さの白和えが口いっぱいに広がる。)

常連客 1: 「な、なんだこれはあああああ
ああ！！！！？？？」

(店内に雷鳴が轟き、客の背後に天使が舞
い降りる)

新規客 2: 「これは…いや…こんなの…！！！」

(カットイン…客の視界が宇宙へと変わる。彼らはたい焼きを食べながら銀河を
飛び交い、無重力空間で浮遊する演出！)

常連客 3: 「甘みと塩味の完璧なバラン
ス…！！！」

(カットイン…目を見開いた客の表情。背
景には炎が燃え上がり、目から光が放た
れる)

TO 客: 「ダイエット中なのに…！止まら
ない…！！！」

サラリーマン…「食感の革命だ：外はパリパリなのに中はなめらか：！」

（店内にいる全員が狂ったようにたい焼きを貪り食う。店内の温度が上昇、熱気が充満する）

トム…「HAAAAH! みんな、感じているね！？ これは新時代のたい焼きさ！」

魚住…「なんなのこのカオス：！」

（奥の席に座る老人が震えながら啜く）

老人…「…まるで：戦後、初めて食べた母の白和えのようじゃ：！」

（一筋の涙が頬を伝う。その瞬間、店内に風が吹き抜ける）

（カメラが上昇し、たい焼きを食べる客たちの熱狂的な様子が映し出される。ついに、全員が完食）

常連客：「……………（震えながら）おかわりください…」

（店内、爆発的な歓声が上がる！）

第四幕…迷える漫画家と奇跡のたい焼き

シーン5：漫画家・三谷の来店

（店内。喧騒が収まり始めた午後、ボサボサ頭の男が疲れた様子で入店する）

三谷…（ため息）「…新連載のネタが出ない…締め切りも迫ってる…もう俺の漫画家人生も終わりか…」

（カウンターに座り、メニューを見るが、目が死んでいる）

魚住…「いらっしやいませ。ご注文は？」

三谷..(ぼそつと)「…なんでもいいです…」

(トムがすかさず飛び出してくる)

トム..「ならば！君にはコレだ！！」

(トム、豪快に『ほうれん草の白和えたい焼き』を置く。神々しい光が差し込む演出)

三谷..「……ほうれん草？」

魚住..「……白和えです」

(三谷、やる気のないまま一口かじる。すると——)

三谷..「……！！！」

(衝撃が走る！)

三谷..「うおおおおおおお！！！！！！

これは……！」

（突然、雷鳴が轟くような効果音！三谷の頭上に雷が落ちたかのような演出！！）

三谷…「この優しい甘さ…！ほうれん草のほろ苦さが、まるで…！人生の苦みの中に光る希望…！」

（カットイン…三谷の脳内。白黒の漫画調で、たい焼きから放たれる神々しい光が彼を包み込む。天使の合唱が響く）

三谷…「この、予想外の味の展開…！甘さとしょっぱさがせめぎ合い、最終的に包み込むような優しさ…！まるで少年漫画の黄金展開ツツツ！！」

（涙が滲む）

三谷…「見えた…新連載のネタが…！！」

魚住…「え、そんな大袈裟な…！」

三谷…「大袈裟じゃない！！これは…：…これは『たい焼きバトル漫画』だ！！」

(突然、ノートを取り出し、スケッチし始める三谷。目が完全に覚醒し、瞳孔が開いている)

トム…「オーマイガー！新連載の誕生だ！！」

魚住…「こんなことで…？」

(三谷、感極まって立ち上がり、たい焼きを握りしめる)

三谷…「これは…これはただのたい焼きじゃない…まるで…宿命の一戦…！」

(漫画のように周囲に炎が燃え上がる演出)

第五幕…たい焼きトム、漫画になる！

シーン6: 衝撃の漫画化発表!

(数週間後。店のテレビにニュースが流れる)

「<アナウンサー>:「今話題の新連載!『バトルたい焼き職人トム』が週刊漫画誌で連載決定!」

(店内の常連たちがどよめく)

常連客1:「え、あのたい焼き屋が漫画に?」

常連客2:「マジかよ...!トムが主人公?」

(トム、嬉々として飛び上がる)

トム:「YEEEEES!! 夢が叶ったアアアアアアア!」

(魚住、新聞の連載告知を見て目をこする)

魚住「ほんとに…漫画になってる……」

(エンドロール風に、連載開始のカットが流れる)

(タイトル『バトルたい焼き職人トム』の第一話の扉絵…炎を背負いながらたい焼きを焼くトムの姿。バックには巨大なたい焼き龍が描かれる)

魚住「(呆れながら微笑んで)「…まあ、いっか」

(エンドシーン…店の前にはさらに行列が伸び、賑わいが増す。天から降り注ぐ光に包まれる『たい焼きトム』)

(完)